

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000372
法人名	有限会社 あいらんど
事業所名	グループホーム あいらんど
所在地	愛媛県伊予市下三谷2278-1
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 12 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 3 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・広い敷地を活かし、天気の良い日は散歩や外での食事を楽しめるよう支援している。 ・色々な医療機関との連携を活かして、個々の症状に合った医療機関への受診、看取りの症例も何例もあり、本人や家族の希望通りの医療機関への受診ができるように支援している。 ・入居者のペース、レベルに合わせて介護できている。 (食事の時間・食事の形態・吸引器の準備等) ・季節ごとの行事をおこなっている。 ・事業所の菜園で野菜作りを行い、利用者と共に収穫し、その食材で工夫した料理を考え、おだしている。 ・スタッフの定着率が良く、約半数(10名)は開設以来10年近く勤務しており、チームケアに繋がっている。 ・家族の面会も多く、職員とも顔を合わすことが多く気軽に声掛けしてもらえるように雰囲気作りしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>両側の土手に桜並木のある静かな田園地帯の中に立つ事業所で、広い敷地内には家庭菜園や遊歩道、ゲートボール場がある。開設して12年目を迎え、利用者の重度化が進む中、「最期まで事業所で暮らしたい」と希望する利用者や家族が増え、昨年5名の看取りをしている。職員は一人ひとりの看取りを振り返ることで、そこから学んだ経験を次に生かせるよう真摯に取り組んでいる。事業所は職員の育成に力を入れており、事業者内外の研修を計画的に受講できる環境が整えられており、資格取得も奨励している。また、法人として「介護職員キャリアパス要件規程」を作成し、職位・職責の要件での手当を支給するなど職員の働き甲斐にも繋がっている。経験豊かな職員が多く在籍し、困難な利用者のケアにもチーム体制で工夫しながら取り組んでいる。また、年2回家族会が開催され、イベントに参加してもらいながら家族同士や職員との交流を図っている。事業所では長年の実践の積み重ねにより、地域の民生委員や地域包括支援センター職員からの信頼も厚く、個別の相談を受け対応している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あいらんど

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)
氏名 濱田 好人

評価完了日 平成 27 年 2 月 12 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域との連携・交流を大切にした地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ理念を全職員で検討して実践に活かすために再構築した。 再構築した理念を職員が常に目にする事ができる場所に貼っている。	
			(外部評価) 職員全員で考えて作成した4項目の理念を玄関に掲示し、「ゆったりと穏やかに、自分らしく、達成感を持って、地域と笑顔でつながる暮らし」の実現を目指してチームケアに努めている。また、ユニット毎に考えて理念を作成し、リビングに掲示して折に触れ振り返りをしている。さらに、毎月のスタッフ会で接し方などを話し合いながら、理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所の周辺は地域の方々の散歩コースとなっている為、いろいろな方と挨拶が日常的になっている。地域の秋祭りには神輿や獅子舞に入ってもらっている。夕涼み会は家族会の協力を得て開催しており、近所の方々がホームを訪れ地域との交流を深めている。	
			(外部評価) 事業所の敷地の両側の土手は桜並木の散歩道になっており、日頃から近所の人達が往来し挨拶を交わす関係ができています。事業所は町内会に加入し、地域行事へ参加協力している。また、市の花火大会に合わせて開催する夕涼み会は、利用者や家族のほか、多くの地域住民が集まり盛大に開催されている。利用者は、職場体験で訪れる中学生との交流も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 近所の方、地域の方から家族の介護について事業所として相談をうけている。家族介護教室への参加等、家族や地域の人々に認知症を理解してもらえよう取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 二ヶ月に一回は開催し、利用状況・サービスの実践状況・外部評価等の報告をし、議題に沿った意見交換や勉強会の内容をサービス向上に活かしている。避難訓練・消火訓練・救助訓練に参加していただいたり、備蓄食品の試食会も再度行なった。又、他のGHの運営推進会議にも参加している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、民生委員、近隣住民、組総代、市職員等が参加して開催されている。会議では利用者状況や活動報告のほか、健康講座などを取り入れる工夫をしている。また、会議で看取り介護の報告もしており、参加している家族に事業所での終末期ケアについて理解を得ることができた。会議で「玄関前にある橋のガードレールが消防車の進入の妨げになる」という意見が出され、改修に繋がった事例もある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加してもらい、現場の実情を踏まえた意見交換をしている。また、代表者は日頃から市担当者と連携を図り、助言を得たり、情報提供を行っている。地域包括支援センターとも密に連携し役割についての勉強会を開催している。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に出席しており、情報交換を行うなど事業所の取組みを理解してもらっている。生活保護担当者にも相談に応じてもらい、連携して利用者の支援に当たっている。また、地域包括支援センターや地区の民生委員から、認知症の方の相談を受け対応するなど、相互の信頼関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束廃止マニュアルを作成している。身体拘束は行わないことを、施設内研修を通してすべての職員が認識し、身体拘束のないケアをおこなっている。身体拘束が必要なときは生命にかかわるときであり、家族に十分説明し身体拘束承諾書をもらう体制を整えている。日中は玄関の施錠を行っていない。</p> <p>(外部評価) 事業所では身体や言葉の拘束をしないケアに努めている。拘束の防止等を新入職員の教育内容に取り入れ、拘束をしないケアを職員全員が認識している。玄関の施錠はしておらず、一人で外出する利用者には職員と一緒に付き添って歩くことで落ち着きを取り戻したケースもあり、職員間で話し合いながら利用者の行動の背景にあるものを探るように検討している。また、「行方不明時対応マニュアル」を作成し、警察署に助言をもらっている。転倒の恐れのある利用者の居室にはクッションフロアを敷くなどの工夫をするなど、拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は行わないことを施設内研修やミーティング時に話し合い、すべての職員が認識し、虐待のないケアを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度の施設内研修を行い、職員が理解している。また、マニュアルを作成しており、利用者や家族等に説明できる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際には重要事項説明を十分行い、家族の不安、疑問点を尋ね、理解、納得を頂いて入居している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 年2回の家族会や運営推進会議での家族出席時等、意見交換ができています。又、家族の面会も多いため職員は利用者や家族から意見や要望を聞き取ることが出来るよう努力している。	
			(外部評価) 家族の面会時には職員から必ず利用者の様子を報告し、意見を聞くようにしている。運営推進会議にも家族の参加があり、意見交流の場となっている。また、年2回家族会を夕涼み会やもちつき大会と合わせて開催し、ほとんどの家族に参加いただいている。家族と一緒にイベントの準備作業をしながら意見を聞くことも多く、家族間の交流の機会にもなっている。また、利用者から「〇〇に行きたい」などの意見が出され、実現できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の会話の中や月一回のユニット会議に代表者も出席し、話し合った内容や意見等を運営に反映させている。又、管理者は年1回、代表者は年2回職員との個別面談の機会を設けている。 (外部評価) 代表者と管理者は職員と定期的に面談し、悩みの相談に応じると共に、意見や提案を聞いている。管理者は現場で直接職員に介護技術等の指導や助言を行い、不満なども聞いて改善に繋げている。事業所内の勉強会を開催したり、外部研修にも参加できるように研修体制も充実させ、資格取得も支援している。また、法人として「介護職員キャリアパス要件規程」を作成し、職位・職責の要件での手当を支給するなど職員の働き甲斐にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は特別な事がない限り毎日出勤し、職員の健康状態・勤務状況を把握し、モチベーションを上げるような対策をしている。また、人事考課制度により職員個々の評価を行い、考課表を基に一人ひとりとヒアリングを行い、労働条件等職場環境の整備に努めている。その他、月一回のスタッフ会を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人外の研修を受ける機会を確保し、法人内では、助言、指導、資料、文献の提供等、管理者・計画作成担当者がその都度行っている。又、所外研修受講者はユニット毎のスタッフ会で社内研修を行なっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者は同業者ネットワーク等に参加し、事業者同士の協働により他のGHの運営推進会議に参加する等、質の向上に取り組んでいる。又、職員個人が研修等で知り合った方と情報交換している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始前の事前調査では、本人が一番困っている事、不安な事、求めている事を傾聴し、少しでも安心して新しい暮らしをスタートできるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前の事前調査では、家族が一番困っている事、不安な事、求めている事を家族から訊くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時、本人・家族が求めている支援を見極め、地域包括センターや病院の地域連携室とも連携をとり、その時その方のニーズにあったサービス利用を慎重に検討し、紹介や助言をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごす事で、利用者が生き生きとした言動や笑顔を引き出せる様雰囲気作りを行い、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 一方的な支援ではなく、家族と一緒に本人を支えていく関係を築くために、場合によっては、通院介助や外出、外泊を定期的に行ってもらっている。 又、家族会で行なわれるイベント(夜市・餅つき)では、職員に代わって介護をしてもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの関係が途切れないように住んでいた地域の敬老会に出かけたり、同窓会・墓参り・親戚宅等へ家族と一緒に出かけるよう外出の支援をしている。盆、正月には外泊され、近所、親戚の方と一緒に過ごす機会がある。入居後はホーム近くの神社や山、海岸が新たな馴染みの場所となっており、出かけることが楽しみとなっている。 (外部評価) 利用者が入居前に住んでいた地区の敬老会に行ったり、家族が同行して同窓会や婦人会の集まりに参加したりするなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。以前お世話になっていた民生委員が面会に来られる利用者もいる。利用者はユニット間を自由に行き来することができ、利用者同士の馴染みの関係もできてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で利用者個々の思いや感情を把握することにより、仲のよいものが同士が過ごせる配慮や、孤立しないようさりげなく交わされる配慮など、利用者同士の支えあいを支援している。職員は全員がそのときの利用者同士の関係を情報で共有、理解している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居してもその後の利用者や家族には利用者の状況を訊くようにしている。また、他のサービスに移行する際には、くわしい介護情報提供書を作成し、申し送りをしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で(入浴時・調理手伝時・散歩時・食事時等)要望を聞き、出来るだけ希望に添うように努めている。思いや意向を知ることが困難な利用者には、表情や動作等からも把握するよう努めている。個別カンファレンスをもち、利用者本位に検討をしている。 (外部評価) 日頃から職員は利用者の話しをよく聞き、思いをくみ取るよう努めている。思いを言い表すことが困難な利用者には、日常の生活の様子から推察したり、家族から情報を聞き理解するようにしている。長くファンだった歌手のコンサートに行きたいという利用者の希望が出され、家族と一緒に職員が付き添い実現するなど、個々の希望が叶えられるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントシートにより利用者一人ひとりの生活歴を情報収集し、職員全員が把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの力量、心身状態を観察し職員全員が情報を共有している。月1回の個別カンファでも利用者ごとの現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用開始時には、まず、入居前に聞き取った利用者の生活歴や健康状態等から暫定的な介護計画を作成している。実施期間を明示しており見直し時にはスタッフ会で意見やアイデアを出し合い作成している。一ヶ月に一回介護計画の評価を行い状況の変化によっては随時見直しを行っている。	
			(外部評価) 計画作成担当者が介護計画を作成し、担当者を決めて毎月モニタリングを行っている。カードックスを活用し、常に職員は介護計画を確認しながら経過記録に実施状況を記入できる様式となっており、モニタリングに活用されている。状態の変化がある場合はその都度見直しをしているほか、通常は6か月毎に職員が話し合い介護計画の見直しをしている。また、介護計画は家族の面会時に見てもらいながら説明し、了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者一人ひとりのケアプランに添った介護を行い、その内容を介護記録に詳細に記録している。月一回のカンファレンスにて情報の共有をし、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院介助入退院のお迎え・個別外出の支援等、様々なケースや状況に柔軟に対応している。訪問看護などによりの確な専門医への移送サービス体制がとれている。訪問マッサージを週2~3回受けておられる利用者がおられる。定期的に理美容を受けられるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 周辺施設（商店、警察、消防等）の理解、協力への働きかけを行っている。民生委員さんとの意見交流の場をもっている。地域包括センターからの入居依頼、相談等があった場合もケアマネジメントについて協働している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者及び家族が希望する医療機関を受診している。又事 業所の協力医療機関とは24時間体制で連携を図っており、緊 急時にも対応できるように体制を整備している。月2回の往 診があり、定期的な健康診断や、血液検査も受けるなど健康 管理に努めている。眼科・歯科の往診もあり、個別専門病院 の受診体制も整えている。 (外部評価) 入居時に利用者や家族の希望するかかりつけ医を選ぶことが できる。通院は家族付き添いを基本としているが、対応でき ない場合は職員が同行している。受診後には家族から情報を 聞き、職員間で共有している。通院が困難な利用者には、月 2回協力医の訪問診療があり、日常的な健康管理と急変時の 対応をしている。また、利用者の希望に沿って、歯科や眼科 の往診の対応も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者をよく知る看護師が日常の健康管理を行い、状態の 変化や異常を早い段階で気づき、医療支援につなげている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院する際に本人のストレスや負担を軽減する為に本人に 対する情報の提供を行い、早期退院に向け医療機関との連携 を整えている。退院前には担当医や看護師に情報提供を行っ てもらいダメージを最小限にできるよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用開始時に、「看取りに関する指針」を家族に説明し同意 を得ている。(これまで14名の看取りを行なっている)看取 りについての医師を交えた話し合いの場を設け、方針を共有 している。看取り計画書を作成し、主治医、訪問看護との連 携を図り、終末期のケアにあたっている。全職員が技術や知 識を高めていくために、勉強会を実施している。看取り後振 返りを行い、次回の看取りに生かせる話し合いの場を設けて いる。 (外部評価) 開設から多くの利用者の看取りを行っている。利用者の高齡 化や重度化もあり、昨年は5名の看取り介護を経験してい る。「重度化した場合における対応に係る指針、看取りに関 する指針」を作成し、入居時に対応できる内容を利用者や家 族に説明するほか、状態の変化に応じて医師等を交えて話し 合いをしている。協力医と看護師との医療連携体制を整え看 取り介護をしており、看取り後には反省会を持って職員全員 で振り返り、学びの機会にしている。また、毎回職員は利用 者を自分の立場に置き換えて考え、利用者や家族にとって最 良の選択ができるよう支援に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対策マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。所外研修にも参加し、所内研修にて急変時の対応についてスタッフ全員が勉強している。(AEDの使い方・気道異物の除去法・心肺蘇生法)	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策マニュアルを作成しており、年一回消防訓練、避難訓練を利用者とともに受けている。又、民生委員、総代など地域の方や地元の消防団の方々は、夏祭り・秋祭りには来設され、ホームのことをよく知っており、災害時協力を得られるよう働きかけ、協力体制を整えている。備蓄については、食料、飲料を3日分程度は備えている。地震の時は地域の高齢者の避難場所として解放する。 (外部評価) 年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。うち1回は消防署立ち会いの下で実施しアドバイスをもらっている。災害発生時には運営推進会議に参加のある地域住民や地元消防団に協力依頼をしており、消防団員には夕涼み会に参加してもらい、建物の構造や利用者の状況を知ってもらっている。また、災害時には地域の避難場所として開放できることを地域住民に伝えており、近くに住む一人暮らしの高齢者の安心にも繋がっている。備蓄品を整備し、賞味期限を確認し定期的に交換すると共に、食料品は実際に調理し試食をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報の取り扱いの重要性を職員全員が理解しており、誇りやプライバシー、プライドを損ねるような言葉掛けや対応がないよう配慮している。又スタッフ会などで個人情報保護について話し合いをもっている。来設者の個人情報保護については来客チェック表を箱式にするなどしている。 (外部評価) 利用者を人生の先輩として尊重するよう、職員は常に意識している。排泄や入浴の介助の際には、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう注意し、特に若い利用者には同性介助を行えるよう職員のシフトを調整している。家族などの面会時には面会名簿を記入してもらっているが、個人情報の取り扱いにも気をつけ、他の面会者に名前が分からないよう箱に入れてもらう工夫をしている。丁寧な声かけを心がけているが、利用者や家族の意向を聞いて親しみのある呼び名で呼んでいる利用者もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人ひとりが自己決定できるよう選んでもらう場面作りや、日常的に声掛けを行っている。自己決定できる人にはして頂き、うまく意思表示ができない場合も不安にならないように職員が思いを察知して自己決定をうながすよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員ができるだけ業務におられることのないよう話し合いをもっている。利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるよう個別性のある支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの個性を大切にし、髪型や服装、おしゃれを支援している。2ヶ月に1回訪問理美容院に来設してもらい、好みのカット、カラーをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員は利用者一人ひとりの好みを把握し、準備・片付けは出来るだけ一緒に行い、食事は楽しむことのできるよう支援している。献立は利用者と話し合っ立って、外食を楽しむこともある。又、菜園で取れた旬の野菜を食事に取り入れたり、天気の良い日は戸外での食事と一緒に楽しんでいる。 (外部評価) 担当職員が交代で献立を考え、調理している。菜園で収穫する野菜以外の食材は、毎日のように近くのスーパーへ買い物に行っており、利用者と一緒に出かけることも多い。利用者は専用の茶碗やはし、湯呑みを使用し、職員は介助をしながら利用者と一緒の食卓を囲んでいる。食事に時間のかかる利用者にはゆっくり食事ができるよう時間をずらせて介助を行っている。また、季節毎に特別メニューを調理したり、誕生日には利用者の好みに合わせて外食するなど、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 糖尿病の方がいるため、水分、栄養バランス、一日のおおまかなカロリー摂取量を把握し、月1回体重測定を行なっている。利用者の状況に応じてキザミ食、ペースト食、水分のトロミをつけるなど工夫して提供している。食事量は健康管理表に記入している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりの口腔状態に応じて口腔ケアを行っている。夕食後の義歯の清潔保持に努めている。歯の具合が悪いときは協力歯科医院の受診や訪問を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の排泄状態を詳細に記録し、表情や動作で察知し、誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) 日中は、なるべくトイレで排泄ができるよう支援している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレのサインを見逃さないよう声をかけ、トイレ誘導を行っている。夜間にも同様のトイレ介助を行なっているが、適切な紙パンツやパットなど排泄用品を選択して使用し、睡眠を妨げないよう工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェックを毎日行っており、水分摂取に気をつけ、食事の工夫(牛乳等)や、運動をできる限り取り入れ、自然排便を促すよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日は概ね決まっているが、利用者一人ひとりの希望に合わせた入浴支援を行っている。利用者の状況によっては特殊浴槽を使用して入浴を行っている。入浴の際利用者とのコミュニケーションを大切に、楽しみをもてるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望に合わせて毎日入浴ができるよう準備している。入浴することができる。個別浴槽と特殊浴槽を利用者の身体状態に合わせて使い分け、安心安全にゆっくりと湯船に浸かってもらえるよう配慮している。入浴を嫌う利用者には入浴時間を変更したり職員を代えて声かけをするなど、入浴ができるよう工夫している。入浴時には利用者の湿疹やあざなど身体の状態を観察したり、浴室で転倒しないよう気をつけている。また、ゆず湯などを用意して入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、生活リズムを整え、安眠できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は利用者の薬の目的、副作用、用法、用量を承知しており、服薬の支援、症状の変化を確認し、薬歴表に記入している。 又、のみ忘れ・誤薬がないように2重チェック体制をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) なるべく一人ひとりの力量にあわせた役割をもってもらい(食器拭き、洗濯、ゴミ捨て、掃除機がけ等)カラオケや読書、オセロ、将棋や散歩の楽しみごとにも時間を費やすことのできるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候の良い日には敷地内を散歩したり、食材の買い物に行くときは、戸外へ出かけられるよう支援している。日々の会話の中で利用者の行きたいところを把握しており、できるだけ希望に添うよう家族とも連携をはかり実現できるよう支援している。(花見、外食、墓参り、里帰り、ミュージカル、コンサート) (外部評価) 天気の良い日は敷地内の遊歩道を散歩している。事業所周辺の桜並木のある土手は地域住民の散歩コースになっており、犬の散歩をしている人と挨拶を交わすこともある。初詣や花見、蕁狩り、奥道後観劇など外出の年間計画を立て、利用者は遠出を楽しんでいる。今後は、デイサービスの利用者と一緒に、坊っちゃん劇場にミュージカルを見に行く予定である。また、家族の協力を得ながら、個別にミュージカルやコンサートなどに出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの力量に応じて金銭管理を援助している。買い物のときは、できるだけ本人が支払う機会をもっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じ、自由に電話を利用ができるようにしている。又、年賀状や暑中見舞いの送付も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 食堂のテーブルは家庭用家具（施設用ではない）を使用しており、居間の掘りごたつ、リビングのソファ等家庭的な共同空間作りに努めている。（手作りののれん、カレンダー）トイレは気持ちよく使用できるように配慮している。 玄関ホール、リビング、中庭には季節に応じて環境づくりに努めている。（メダカ・グリーンカーテン・観葉植物・季節の花）</p> <p>(外部評価) リビングは広々として明るく、食卓やソファが置かれている。和室にある掘りごたつなど、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。オープンキッチンから、調理の音や匂いが漂い、利用者の食欲を増進させてくれている。また、中庭を囲んで居室があり、車いすで戸外に出て日光浴をすることができる。廊下には行事の写真を飾り、玄関には雛飾りを飾るなど、利用者や訪問者に季節を感じさせてくれている。また、菜園で収穫した大根を利用者と一緒に刻んで廊下に干すなど、生活の匂いを感じることでできる共用空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関ホール、リビング、居間の掘りごたつ、中庭等、共同空間の中に自由に過ごせる居場所を確保している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具や寝具と生活用品を持込まれ、本人や家族と協力し安心して過ごされるよう機能的に配置し、家族の写真や好みのポスター、カレンダー等を飾ることにより、居心地良く過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室の入口には、利用者一人ひとりに合わせて作った暖簾が掛けられ、自分の部屋が目印となっている。居室にはエアコン、ベッド、クローゼットが備え付けられている。利用者が使い慣れた家具や健康足ふみ器、テレビなどを持ち込んで個性的な部屋づくりをしており、結婚式当日に花嫁姿で訪れた孫と一緒に写真が飾られた居室もあり、居心地の良い部屋になっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各居室、トイレ、浴室に手作りの表札やのれんをつけている。自分の居室が、わからない人には、造花等の目印をつけている。 浴室の滑り止め、要所の手すり、ベッド柵の設置等、ADLの低下を補うよう配慮している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000372
法人名	有限会社 あいらんど
事業所名	グループホーム あいらんど
所在地	愛媛県伊予市下三谷2278-1
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 12 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 3 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりが穏やかに暮らせるように生活のリズムを整え、馴染みの関係を活かし、利用者の秘めた力を引き出す支援を行っている。 ・季節ごとの行事や環境作り、菜園の収穫等、常に五感に働きかけた支援をしている。 ・夏祭りや地方際を通して地域との交流を深め、親しみやすいホームにしている。 ・日頃から健康管理を行い、異常の早期発見をし、医療機関への受診を速やかに行っている。 又、看取りができる環境を整えており重度化や終末期のあり方について家族との話し合いを早い段階から行い、終末期のケアにあたっている。 ・スタッフの定着率が良く、約半数(10名)は開設以来10年近く勤務しており、チームケアに繋がっている。 ・家族の面会時等に意見や要望を言いやすい環境づくりに努め、家族との信頼関係を構築できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>両側の土手に桜並木のある静かな田園地帯の中に立つ事業所で、広い敷地内には家庭菜園や遊歩道、ゲートボール場がある。開設して12年目を迎え、利用者の重度化が進む中、「最期まで事業所で暮らしたい」と希望する利用者や家族が増え、昨年5名の看取りをしている。職員は一人ひとりの看取りを振り返ることで、そこから学んだ経験を次に生かせるよう真摯に取り組んでいる。事業所は職員の育成に力を入れており、事業者内外の研修を計画的に受講できる環境が整えられており、資格取得も奨励している。また、法人として「介護職員キャリアパス要件規程」を作成し、職位・職責の要件での手当を支給するなど職員の働き甲斐にも繋がっている。経験豊かな職員が多く在籍し、困難な利用者のケアにもチーム体制で工夫しながら取り組んでいる。また、年2回家族会が開催され、イベントに参加してもらいながら家族同士や職員との交流を図っている。事業所では長年の実践の積み重ねにより、地域の民生委員や地域包括支援センター職員からの信頼も厚く、個別の相談を受け対応している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あいらんど

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名

亀岡 美由紀

評価完了日

平成 27 年 2 月 21 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域との連携・交流を大切にした地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ理念を全職員で検討して実践に活かすために再構築した。 再構築した理念を職員が常に目にする事ができる場所に貼っている。	
			(外部評価) 職員全員で考えて作成した4項目の理念を玄関に掲示し、「ゆったりと穏やかに、自分らしく、達成感を持って、地域と笑顔でつながる暮らし」の実現を目指してチームケアに努めている。また、ユニット毎に考えて理念を作成し、リビングに掲示して折に触れ振り返りをしている。さらに、毎月のスタッフ会で接し方などを話し合いながら、理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所の周辺は地域の方々の散歩コースとなっている為、いろいろな方と挨拶が日常的になっている。地域の秋祭りには神輿や獅子舞に入ってもらっている。夕涼み会は家族会の協力を得て開催しており、近所の方々がホームを訪れ地域との交流を深めている。	
			(外部評価) 事業所の敷地の両側の土手は桜並木の散歩道になっており、日頃から近所の人達が往来し挨拶を交わす関係ができています。事業所は町内会に加入し、地域行事へ参加協力している。また、市の花火大会に合わせて開催する夕涼み会は、利用者や家族のほか、多くの地域住民が集まり盛大に開催されている。利用者は、職場体験で訪れる中学生との交流も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 近所の方、地域の方から家族の介護について事業所として相談をうけている。家族介護教室への参加等、家族や地域の人々に認知症を理解してもらえよう取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 二ヶ月に一回は開催し、利用状況・サービスの実践状況・外部評価等の報告をし、議題に沿った意見交換や勉強会の内容をサービス向上に活かしている。避難訓練・消火訓練・救助訓練に参加していただいたり、備蓄食品の試食会も再度行なった。又、他のGHの運営推進会議にも参加している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、民生委員、近隣住民、組総代、市職員等が参加して開催されている。会議では利用者状況や活動報告のほか、健康講座などを取り入れる工夫をしている。また、会議で看取り介護の報告もしており、参加している家族に事業所での終末期ケアについて理解を得ることができた。会議で「玄関前にある橋のガードレールが消防車の進入の妨げになる」という意見が出され、改修に繋がった事例もある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加してもらい、現場の実情を踏まえた意見交換をしている。また、代表者は日頃から市担当者と連携を図り、助言を得たり、情報提供を行っている。地域包括支援センターとも密に連携し役割についての勉強会を開催している。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に出席しており、情報交換を行うなど事業所の取組みを理解してもらっている。生活保護担当者にも相談に応じてもらい、連携して利用者の支援に当たっている。また、地域包括支援センターや地区の民生委員から、認知症の方の相談を受け対応するなど、相互の信頼関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束廃止マニュアルを作成している。身体拘束は行わないことを、施設内研修を通してすべての職員が認識し、身体拘束のないケアをおこなっている。身体拘束が必要なときは生命にかかわるときであり、家族に十分説明し身体拘束承諾書をもらう体制を整えている。日中は玄関の施錠を行っていない。</p> <p>(外部評価) 事業所では身体や言葉の拘束をしないケアに努めている。拘束の防止等を新入職員の教育内容に取り入れ、拘束をしないケアを職員全員が認識している。玄関の施錠はしておらず、一人で外出する利用者には職員と一緒に付き添って歩くことで落ち着きを取り戻したケースもあり、職員間で話し合いながら利用者の行動の背景にあるものを探るように検討している。また、「行方不明時対応マニュアル」を作成し、警察署に助言をもらっている。転倒の恐れのある利用者の居室にはクッションフロアを敷くなどの工夫をするなど、拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は行わないことを施設内研修やミーティング時に話し合い、すべての職員が認識し、虐待のないケアを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度の施設内研修を行い、職員が理解している。また、マニュアルを作成しており、利用者や家族等に説明できる体制を整えており、利用者の後見制度進行中。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際には重要事項説明を十分行い、家族の不安、疑問点を尋ね、理解、納得を頂いて入居している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホーム内及び外部の苦情相談窓口を重要事項説明書に明記し、入居時に説明している。家族が来訪した際には希望や想いを率直に聞かせてもらい、遠方の家族には電話等で連絡を取り合っている。家族会では行事を通して家族間の話し合いの場を設けたり、ケアプラン説明時に発言の場を設け、意見や要望を運営に反映させている。	
			(外部評価) 家族の面会時には職員から必ず利用者の様子を報告し、意見を聞くようにしている。運営推進会議にも家族の参加があり、意見交流の場となっている。また、年2回家族会を夕涼み会やもちつき大会と合わせて開催し、ほとんどの家族に参加いただいている。家族と一緒にイベントの準備作業をしながら意見を聞くことも多く、家族間の交流の機会にもなっている。また、利用者から「〇〇に行きたい」などの意見が出され、実現できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の会話の中や月一回のユニット会議に代表者も出席し、話し合った内容や意見等を運営に反映させている。又、管理者は年1回、代表者は年2回職員との個別面談の機会を設けている。 (外部評価) 代表者と管理者は職員と定期的に面談し、悩みの相談に応じると共に、意見や提案を聞いている。管理者は現場で直接職員に介護技術等の指導や助言を行い、不満なども聞いて改善に繋げている。事業所内の勉強会を開催したり、外部研修にも参加できるように研修体制も充実させ、資格取得も支援している。また、法人として「介護職員キャリアパス要件規程」を作成し、職位・職責の要件での手当を支給するなど職員の働き甲斐にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は特別な事がない限り毎日出勤し、職員の健康状態・勤務状況を把握し、モチベーションを上げるような対策をしている。また、人事考課制度により職員個々の評価を行い、考課表を基に一人ひとりとヒアリングを行い、労働条件等職場環境の整備に努めている。その他、月一回のスタッフ会を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人外の研修を受ける機会を確保し、法人内では、助言、指導、資料、文献の提供等、管理者・計画作成担当者がその都度行っている。又、所外研修受講者はユニット毎のスタッフ会で社内研修を行なっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者は同業者ネットワーク等に参加し、事業者同士の協働により他のGHの運営推進会議に参加する等、質の向上に取り組んでいる。又、職員個人が研修等で知り合った方と情報交換している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始前の事前調査では、本人が一番困っている事、不安な事、求めている事を傾聴し、少しでも安心して新しい暮らしをスタートできるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前の事前調査では、家族が一番困っている事、不安な事、求めている事を家族から訊くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時、本人・家族が求めている支援を見極め、地域包括センターや病院の地域連携室とも連携をとり、その時その方のニーズにあったサービス利用を慎重に検討し、紹介や助言をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごす事で、利用者が生き生きとした言動や笑顔を引き出せる様雰囲気作りを行い、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 一方的な支援ではなく、家族と一緒に本人を支えていく関係を築くために、場合によっては、通院介助や外出、外泊を定期的に行ってもらっている。 又、家族会で行なわれるイベント(夜市・餅つき)では、職員に代わって介護をしてもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの関係が途切れないように住んでいた地域の敬老会に出掛けたり、近所の方が尋ねて下さったりしている。盆、正月には外泊され、近所、親戚の方と一緒に過ごす機会がある。入居後はホーム近くの神社や山、海岸が新たな馴染みの場所となっており、出かけることが楽しみとなっている。 (外部評価) 利用者が入居前に住んでいた地区の敬老会に行ったり、家族が同行して同窓会や婦人会の集まりに参加したりするなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。以前お世話になっていた民生委員が面会に来られる利用者もいる。利用者はユニット間を自由に行き来することができ、利用者同士の馴染みの関係もできてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で利用者個々の思いや感情を把握することにより、仲のよいもの同士が過ごせる配慮や、孤立しないようさりげなく交わされる配慮など、利用者同士の支えあいを支援している。職員は全員がそのときの利用者同士の関係を情報で共有、理解している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居してもその後の利用者や家族には利用者の状況を訊くようにしている。また、他のサービスに移行する際には、くわしい介護情報提供書を作成し、申し送りをしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で(入浴時・調理手伝時・散歩時・食事時等)要望を聞き、出来るだけ希望に添うように努めている。思いや意向を知ることが困難な利用者には、表情や動作等からも把握するよう努めている。個別カンファレンスをもち、利用者本位に検討をしている。 (外部評価) 日頃から職員は利用者の話しをよく聞き、思いをくみ取るよう努めている。思いを言い表すことが困難な利用者には、日常生活の様子から推察したり、家族から情報を聞き理解するようにしている。長くファンだった歌手のコンサートに行きたいという利用者の希望が出され、家族と一緒に職員が付き添い実現するなど、個々の希望が叶えられるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントシートにより利用者一人ひとりの生活歴を情報収集し、職員全員が把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの力量、心身状態を観察し職員全員が情報を共有している。月1回の個別カンファでも利用者ごとの現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用開始時には、まず、入居前に聞き取った利用者の生活歴や健康状態等から暫定的な介護計画を作成している。実施期間を明示しており見直し時にはスタッフ会で意見やアイデアを出し合い作成している。一ヶ月に一回介護計画の評価を行い状況の変化によっては随時見直しを行っている。	
			(外部評価) 計画作成担当者が介護計画を作成し、担当者を決めて毎月モニタリングを行っている。カードックスを活用し、常に職員は介護計画を確認しながら経過記録に実施状況を記入できる様式となっており、モニタリングに活用されている。状態の変化がある場合はその都度見直しをしているほか、通常は6か月毎に職員が話し合い介護計画の見直しをしている。また、介護計画は家族の面会時に見てもらいながら説明し、了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者一人ひとりのケアプランに添った介護を行い、その内容を介護記録に詳細に記録している。月一回のカンファレンスにて情報の共有をし、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 訪問看護などよりの確な専門医への移送サービス体制がとれている。訪問マッサージを週2～3回受けておられる利用者がおられる。定期的に理美容を受けられるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 周辺施設（商店、警察、消防等）の理解、協力への働きかけを行っている。民生委員さんとの意見交流の場をもっている。地域包括センターからの入居依頼、相談等があった場合もケアマネジメントについて協働している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用者及び家族が希望する医療機関を受診している。又事 業所の協力医療機関とは24時間体制で連携を図っており、緊 急時にも対応できるように体制を整備している。月2回の往 診があり、定期的な健康診断や、血液検査も受けるなど健康 管理に努めている。眼科・歯科の往診もあり、個別専門病院 の受診体制も整えている。</p> <p>(外部評価) 入居時に利用者や家族の希望するかかりつけ医を選ぶことが できる。通院は家族付き添いを基本としているが、対応でき ない場合は職員が同行している。受診後には家族から情報を 聞き、職員間で共有している。通院が困難な利用者には、月 2回協力医の訪問診療があり、日常的な健康管理と急変時の 対応をしている。また、利用者の希望に沿って、歯科や眼科 の往診の対応も可能である。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 利用者をよく知る看護師が日常の健康管理を行い、状態の 変化や異常を早い段階で気づき、医療支援につなげている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院する際に本人のストレスや負担を軽減する為に本人に 対する情報の提供を行い、早期退院に向け医療機関との連携 を整えている。退院前には担当医や看護師に情報提供を行っ てもらいダメージを最小限にできるよう努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 利用開始時に、「看取りに関する指針」を家族に説明し同意 を得ている。(これまで14名の看取りを行なっている)看取 りについての医師を交えた話し合いの場を設け、方針を共有 している。看取り計画書を作成し、主治医、訪問看護との連 携を図り、終末期のケアにあたっている。全職員が技術や知 識を高めていくために、勉強会を実施している。看取り後振 返りを行い、次回の看取りに生かせる話し合いの場を設けて いる。</p> <p>(外部評価) 開設から多くの利用者の看取りを行っている。利用者の高齡 化や重度化もあり、昨年は5名の看取り介護を経験してい る。「重度化した場合における対応に係る指針、看取りに関 する指針」を作成し、入居時に対応できる内容を利用者や家 族に説明するほか、状態の変化に応じて医師等を交えて話し 合いをしている。協力医と看護師との医療連携体制を整え看 取り介護をしており、看取り後には反省会を持って職員全員 で振り返り、学びの機会にしている。また、毎回職員は利用 者を自分の立場に置き換えて考え、利用者や家族にとって最 良の選択ができるよう支援に取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対策マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行っている。所外研修にも参加し、所内研修にて急変時の対応についてスタッフ全員が勉強している。(AEDの使い方・気道異物の除去法・心肺蘇生法)	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策マニュアルを作成しており、年一回消防訓練、避難訓練を利用者とともに受けている。又、民生委員、総代など地域の方や地元の消防団の方々は、夏祭り・秋祭りには来設され、ホームのことをよく知っており、災害時協力を得られるよう働きかけ、協力体制を整えている。備蓄については、食料、飲料を3日分程度は備えている。地震の時は地域の高齢者の避難場所として解放する。 (外部評価) 年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。うち1回は消防署立ち会いの下で実施しアドバイスをもらっている。災害発生時には運営推進会議に参加のある地域住民や地元消防団に協力依頼をしており、消防団員には夕涼み会に参加してもらい、建物の構造や利用者の状況を知ってもらっている。また、災害時には地域の避難場所として開放できることを地域住民に伝えており、近くに住む一人暮らしの高齢者の安心にも繋がっている。備蓄品を整備し、賞味期限を確認し定期的に交換すると共に、食料品は実際に調理し試食をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報取り扱いの重要性を職員全員が理解しており、誇りやプライバシー、プライドを損ねるような言葉掛けや対応がないよう配慮している。又スタッフ会などで個人情報保護について話し合いをもっている。来設者の個人情報保護については来客チェック表を箱式にするなどしている。 (外部評価) 利用者を人生の先輩として尊重するよう、職員は常に意識している。排泄や入浴の介助の際には、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう注意し、特に若い利用者には同性介助を行えるよう職員のシフトを調整している。家族などの面会時には面会名簿を記入してもらっているが、個人情報の取り扱いにも気をつけ、他の面会者に名前が分からないよう箱に入れてもらう工夫をしている。丁寧な声かけを心がけているが、利用者や家族の意向を聞いて親しみのある呼び名で呼んでいる利用者もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者一人ひとりが自己決定できるよう選んでもらう場面作りや、日常的に声掛けを行っている。自己決定できる人にはして頂き、うまく意思表示ができない場合も不安にならないように職員が思いを察知して自己決定をうながすよう努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員ができるだけ業務におられることのないよう話し合いをもっている。利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるよう個別性のある支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの個性を大切にし、髪型や服装、おしゃれを支援している。2ヶ月に1回訪問理美容院に来設してもらい、好みのカット、カラーをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員は利用者一人ひとりの好みを把握し、準備・片付けは出来るだけ一緒に行い、食事は楽しむこと出来るよう支援している。献立は利用者と一緒に話し合っ立って、外食を楽しむこともある。又、菜園で取れた旬の野菜を食事に取り入れたり、天気の良い日は戸外での食事と一緒に楽しんでいる。	
			(外部評価) 担当職員が交代で献立を考え、調理している。菜園で収穫する野菜以外の食材は、毎日のように近くのスーパーへ買い物に行っており、利用者と一緒に出かけることも多い。利用者は専用の茶碗やはし、湯呑みを使用し、職員は介助をしながら利用者と一緒の食卓を囲んでいる。食事に時間のかかる利用者にはゆっくり食事ができるよう時間をずらせて介助を行っている。また、季節毎に特別メニューを調理したり、誕生日には利用者の好みに合わせて外食するなど、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 糖尿病等疾患の方がいるため、水分、栄養バランス、一日のおおまかなカロリー摂取量を把握し、月1回体重測定を行っている。利用者の状況に応じてキザミ食、ペースト食、水分のトロミをつけるなど工夫して提供している。食事量は健康管理表に記入している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりの口腔状態に応じて口腔ケアを行っている。夕食後の義歯の清潔保持に努めている。歯の具合が悪いときは協力歯科医院の受診や訪問を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の排泄状態を詳細に記録し、表情や動作で察知し、誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) 日中は、なるべくトイレで排泄ができるよう支援している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレのサインを見逃さないよう声をかけ、トイレ誘導を行っている。夜間にも同様のトイレ介助を行なっているが、適切な紙パンツやパットなど排泄用品を選択して使用し、睡眠を妨げないよう工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェックを毎日行っており、水分摂取に気をつけ、食事の工夫(牛乳等)や、運動をできる限り取り入れ、自然排便を促すよう支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日は概ね決まっているが、利用者一人ひとりの希望に合わせた入浴支援を行っている。利用者の状況によっては特殊浴槽を使用して入浴を行っている。入浴の際利用者とのコミュニケーションを大切に、楽しみをもてるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望に合わせて毎日入浴ができるよう準備している。入浴することができる。個別浴槽と特殊浴槽を利用者の身体状態に合わせて使い分け、安心安全にゆっくりと湯船に浸かってもらえるよう配慮している。入浴を嫌う利用者には入浴時間を変更したり職員を代えて声かけをするなど、入浴ができるよう工夫している。入浴時には利用者の湿疹やあざなど身体の状態を観察したり、浴室で転倒しないよう気をつけている。また、ゆず湯などを用意して入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、生活リズムを整え、安眠できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は利用者の薬の目的、副作用、用法、用量を承知しており、服薬の支援、症状の変化を確認し、薬歴表に記入している。 又、のみ忘れ・誤薬がないように2重チェック体制をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活歴や、趣味を把握し、スタッフの支援の中で、生きがいと役割をもって生活している。(洗濯たたみ、洗濯干し、炊事、縫い物、張子、散歩、楽しみにしているテレビ番組、音楽鑑賞)	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 敷地内にある遊歩道を歩いたり近くの神社へ散歩に行ったり、スーパーへの買い物等、日常的に外出を行なっている。 利用者の行きたい所を把握し、家族とも連携をはかり実現できるように支援している。(花見、外食、ショッピング、墓参り) (外部評価) 天気の良い日は敷地内の遊歩道を散歩している。事業所周辺の桜並木のある土手は地域住民の散歩コースになっており、犬の散歩をしている人と挨拶を交わすこともある。初詣や花見、蕁狩り、奥道後観劇など外出の年間計画を立て、利用者は遠出を楽しんでいる。今後は、デイサービスの利用者と一緒に、坊っちゃん劇場にミュージカルを見に行く予定である。また、家族の協力を得ながら、個別にミュージカルやコンサートなどに出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの力量に応じて金銭管理を援助している。買い物のときは、できるだけ本人が支払う機会をもっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に応じ、自由に電話を利用ができるようにしている。又、年賀状や暑中見舞いの送付も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 食堂のテーブルは家庭用家具（施設用ではない）を使用しており、居間の掘りごたつ、リビングのソファ等家庭的な共同空間作りに努めている。（手作りののれん、カレンダー）トイレは気持ちよく使用できるように配慮している。 玄関ホール、リビング、中庭には季節に応じて環境づくりに努めている。（メダカ・グリーンカーテン・観葉植物・季節の花）</p> <p>(外部評価) リビングは広々として明るく、食卓やソファが置かれている。和室にある掘ごたつなど、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。オープンキッチンから、調理の音や匂いが漂い、利用者の食欲を増進させてくれている。また、中庭を囲んで居室があり、車いすで戸外に出て日光浴をすることができる。廊下には行事の写真を飾り、玄関には雛飾りを飾るなど、利用者や訪問者に季節を感じさせてくれている。また、菜園で収穫した大根を利用者と一緒に刻んで廊下に干すなど、生活の匂いを感じることでできる共用空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関ホール、リビング、居間の掘りごたつ、中庭等、共同空間の中に自由に過ごせる居場所を確保している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具や寝具等、生活用品を持込まれ、本人や家族と協力し安心して過ごされるよう機能的に配置したり作品や写真を飾って工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室の入口には、利用者一人ひとりに合わせて作った暖簾が掛けられ、自分の部屋が目印となっている。居室にはエアコン、ベッド、クローゼットが備え付けられている。利用者が使い慣れた家具や健康足ふみ器、テレビなどを持ち込んで個性的な部屋づくりをしており、結婚式当日に花嫁姿で訪れた孫と一緒に写真が飾られた居室もあり、居心地の良い部屋となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 各居室、トイレ、浴室に手作りの表札やのれんをつけている。自分の居室が、わからない人には、造花等の目印をつけている。 浴室の滑り止め、要所の手すり、ベッド柵の設置等、ADLの低下を補うよう配慮している。</p>	